

# 図書館と県民のつどい埼玉2011報告

平成23年11月5日(土)にさいたま文学館で、「図書館と県民のつどい埼玉2011」が開催され、記念講演・分科会・展示で合わせて1,598名の方が参加されました。記念講演には、子どもから大人まで幅広いファンを持つ作家あさのあつこさんをお迎えし、「いま、若者に伝えたいこと」と題して、埼玉県内の中高生を交えたトークセッションを行いました。明るくサービス精神旺盛なあさのさんの人柄で、中高生たちもリラックスして発言し、会場全体で、考える時間を楽しく共有することができました。  
(詳しい内容は、埼玉県図書館協会のホームページ、または記録集をご覧ください。)



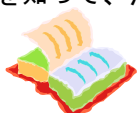
あさのあつこ氏の講演録から 印象的な言葉を一部ご紹介します。

**私の読書体験** … 本はここではないどこかに連れて行ってくれる存在です。中学生の時は閉塞感があって、私はどこにも行けないという気持ちがいっぱいでしたが、本が私を解放してくれました。

**作品について** … 私は主人公を描きたいという想いで小説を書いている作家です。ところが、9.11のテロが起こり、善か悪かをはっきりさせようという世界観に出会って、それがとても嫌でした。国家と個人について何か書きたい、若者に読んでもらえるものをと考えると、『NO.6』が生まれました。

**トークセッション** Q なぜ子どもの気持ちがわかるのですか?  
A 10代の頃いつも悔しい思いをしてそれをひきずって大人になりました。  
A 今の10代も、昔の10代も、抱えているものは同じだなあと感じています。

**日本の若者にメッセージ(震災を踏まえて)**  
生きていなければわからないことがたくさんあって、本に出会って世界がつながっていることを知って、今、ここにいることができる。生きていれば、明日の運命を変える何かに出会えるかもしれない。明日を生き延びた者だけが、明日の可能性をつかむことができる。そんな風に思っています。



## 読み聞かせ・ストーリーテリング 初心者向け研修会に講師を派遣します

(読み聞かせボランティア団体のための講師派遣)  
絵本の読み聞かせやストーリーテリングの初心者向け研修会に、埼玉県立久喜図書館で養成したおはなしボランティア指導者を派遣します。研修会の開催方法は県立久喜図書館がサポートいたしますので、お問い合わせください。研修会開催の1か月半前までにお申し込みください。  
申込み方法・ご案内: 県立久喜図書館子ども読書推進担当 TEL: 0480(21)2659  
[https://www.lib.pref.saitama.jp/stplib/doc/ko\\_shien/shien1.html](https://www.lib.pref.saitama.jp/stplib/doc/ko_shien/shien1.html)

編集後記  
大震災から1年、色々先が見えない時代ですが、明日に希望を持てるお話を子どもたちに手渡していきたいと考えています。私自身も一緒に明るく前に進めるように。(S)

編集発行 埼玉県立久喜図書館  
子ども読書支援センター  
協力 子ども読書支援ボランティア

埼玉県立図書館のホームページ 「子ども読書支援サービス」  
<https://www.lib.pref.saitama.jp/>

〒346-8506 埼玉県久喜市下早見85-5 彩の国 埼玉県  
TEL 0480(21)2659 (代)  
FAX 0480(21)2791

子ども読書支援情報誌

# Shien 第13号

子どもの読書に関わる大勢の方の活動とネットワークを支援(Shien)するそんな大きな願いをもったやさやかな情報誌です。

平成24年3月15日 発行

埼玉県立久喜図書館 子ども読書支援センター

## 《目次》

- 忘れてはいけない数字『1』・・・1
- 連載:おはなし・読み聞かせ実践講座⑬・・・1
- 連載:子ども読書支援関係ボランティア団体等紹介⑬・2
- 新聞・雑誌クリッピング担当から・・・2
- ブックリスト担当から・・・3
- インターネットからの情報収集担当から・・・3
- 図書館と県民のつどい埼玉2011報告・・・4
- 読み聞かせボランティア団体のための講師派遣・・・4

## 忘れてはいけない数字『1』

「3.11.1.17.9.11.どれも1のつく日。忘れてはいけない日」  
4年生の男子のひと言です。

《平和》をテーマにしてのブックトーク依頼を受けた昨年5月のことです。

今年は、3月11日を見つめ考えながら話を進めようときめたものの  
気持ちが前向きになれず、そのまま4年生の教室に入りました。

「進級おめでとう、3月11日の怖かった日を体験しての特別な進級ですね」

との始めの話しかけの反応が、冒頭の「3.11…」の言葉です。9歳の子どもに受け止められたあの日。

「本当に怖かったね。余震、津波、原発のニュースを見聞きするたびに怖さがましていって、  
明日がくるかしらと不安でしたね。」

「そうそう、不安で怖くて怖くて心配で…次の朝が来た時、嬉しかった。ホッとはしたけれど、また怖くなって」  
「戦争とかで思う平和じゃない平和を知ったみたい」

返ってくる言葉に心揺り動かされながら、子どもがいるからこそ前向きになれる。子どもは未来。

子どもは、すごい力をもっている、と話している私自身が力をもらうことができた45分間でした。

廣辺 洋子(子どもといっしょに本を読む「あゆみ会」)



- 1995.1.17 阪神淡路大震災
- 2001.9.11 アメリカ同時多発テロ
- 2011.3.11 東日本大震災



## おはなし・読み聞かせ実践講座 ⑬

おはなし会を行う上でのワンポイントアドバイスをお届けします。

今回のお題は「導入」です。難しいですね。

みなさんは、日々のおはなし会(読み聞かせ)はどのように始められるでしょうか?

まず、あいさつをして、お天気のことを言ったり、学校行事の話題に触れたりしてから  
絵本の読みに入っていく・・・まずはそれで充分です!

読む時間や回数が限られていると導入に使う時間も気になります。でも「導入」は、時にとてもいい仕事をしてくれます。これから読む絵本が、子ども達の心にスッと入っていく作用があって、読み手と聞き手の距離も縮みます。そう、「導入」は大切なのです。

さて、実践です。読み聞かせする絵本に関係のある、手遊び、短い絵本、詩、小物や人形などを選ぶとい  
いでしょう。春夏秋冬、季節ごとのわらべうたの手遊びも、覚えるとかかなり便利です。

私の場合、小学1年生に『せんたくかあちゃん』(さとうわきこ/さく・え、福音館書店)の前に、カミナリつ  
なかりで手袋人形「かみなり小僧」。『めっきらもつきらどおんどん』(長谷川摂子/作、福音館書店)の前に、妖  
怪つなかりで手遊び「とんがりお山の天狗さん」をしました。

低学年には『なぞなぞあそびうた』(角野栄子/作、のら書店)から、なぞなぞ1つ2つ。

中・高学年には『ガラガラヘビのあじ』(木坂涼・アーサー・ビナード/編訳、岩波書店)から、詩を1つ2つ。  
子ども達の評判も良かったのでオススメです。みなさんの成功例も是非お教え下さい!

大塚 由紀(子ども読書支援ボランティア)



# 北本子どもの本を楽しむ会 子ども読書支援関係ボランティア団体等紹介⑬

「北本子どもの本を楽しむ会」は、今から28年前、当時北本にあった3つの文庫の方々の「子どもの本や読書について学ぶ場がほしい」という思いから生まれた自主学習グループです。設立当初から、女性が学ぶためには保育も必要ということで、自主保育を行い、会員が当番制で子どもの保育を行っています。現在会員は23名、30代から60代までと幅広い年齢の仲間が共に学んでいます。

★★活動★★ ◎毎週金曜日（原則第1週は休み）10時から、北本中央図書館の朗読集会室で、「絵本」「よみもの」「おはなし」の学習をしています。◎「おはなしボランティア」として、市内8小学校・4保育所・図書館などでおはなし会を行っています。◎北本市のブックスタート事業で赤ちゃんに絵本を手渡すボランティアを行っています。◎北本中央図書館・北本市子ども文庫連絡会との共催で「読書まつり」「児童文学講座」を開催し、読書の楽しさを子どもたちや市民の皆さんに伝えています。

子どもを取り巻く社会環境は会の設立時とは大きく変わりました。でも絵本を見つめ、おはなしに聞き入る時の子どもたちのまなざしは変わらないのではないかと思います。これからも「何を子どもたちに伝え残したいのか」を探り求めながら、学習を積み重ねていきたいと思えます。 山本文子（北本子どもの本を楽しむ会）

見学もできますので、ご興味のある方は、是非見にいらして下さい。  
(連絡先: 山本文子 ☎048-592-6009)



## きりめき羅針盤

新聞・雑誌クリッピング担当から

東日本大震災から一年  
紙面は被災地の子どもたちに本を届ける活動が継続していること、各地で行われている「読み聞かせ」の様子など伝えています。

前回ご紹介した「3.11 絵本プロジェクトいわて」は、小型のトラックを改造した「絵本カー」を被災自治体に贈る活動を始めました。まだまだ道路事情の悪い地域にある幼稚園や保育園を巡る移動図書館「絵本カー」。子どもたちの笑顔がどんどん広がることでしょう。

【2011.7.18 朝日新聞(朝刊1面)】【8.13 日経新聞(夕刊8面)】【9.5 朝日新聞(夕刊8面)】

「読み聞かせ」に関して、「さいたま市南区の大谷場東小学校と大谷場中学校の共有図書館(文蔵)で、中学生による小学生への「読み聞かせ」が定期的に行われている」との記事がありました。

このような光景が、学校だけでなく家庭でも普通に見られたらいいですね。

「震災後に本の力が見直され」ました。

「デジタル時代にこそ、絵本をはじめとする文字や絵、活字の持つ力が重用になると評価していた」という三鷹市長の言葉がそれを裏付けているのではないのでしょうか。

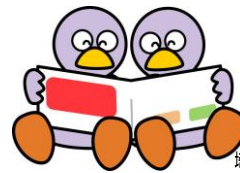
【9.29 毎日新聞(朝刊11面)】

仁昌寺(子ども読書支援ボランティア)



Nice to meet you!  
子ども読書支援ボランティアです。

埼玉県立図書館のホームページ  
<https://www.lib.pref.saitama.jp/>  
「子ども読書支援サービス」のページ



埼玉県のマスコットコバタン

インターネットでは、私たち3グループの活動の一端を

## 使えるブックリスト ブックリスト担当から

中学年向きも  
作成中ダヨ!

低学年向けのリスト「おすすめのよみもの(絵本からよみものへ)」が完成しました。文字が大きく読みやすく、イラストも豊富なもの、シリーズがあり、どんどん続きを読み進めていけるものも、意識してリストに入れました。リストの中から3冊、ご紹介します。



『はじめてのキャンプ』(林明子作・絵/福音館書店)  
絵本からよみものに移行していく最初の一冊にぴったりです。「よみもの本を一冊読み通せた」という子どもの自信にもつながるでしょう。

『きえたおかしなまき』(たかどのほうこ作・絵/アリス館)  
〈ゆかいなさんにんきょうだい〉のシリーズです。オールカラーのかわいらしいイラストも手伝って、あっという間に楽しく読めます。



『わたしのおかあさんは世界一びじん』(ベッキー・ライア作/ルス・ガネット絵/大日本図書)  
迷子になったウクライナに住む女の子、ワーリヤのおかあさんがしがはじまります。ユーモラスな中にも、ぬくもりを感じさせてくれるおはなしです。

絵本を読んでもらうことは大好きで、本の楽しさも充分知っているはずなのに、なかなかひとり読みにすすんでいけない…。そのほとんどは文字を読むことが苦手なお子さんが多いようです。「もう小学生なのだから」と突き放したりせず、時にはよみかかせてあげてはいかがでしょうか。一緒に本を楽しんでくれる大人の存在も、本好きな子どもが育つ大切な要素だと思います。

リストはココ ☞ HPトップブックリスト 森澤(子ども読書支援ボランティア)

## 知っ得情報!



インターネット情報からの情報収集担当から

\*\*\* おすすめHP(ホームページ)の紹介 \*\*\*

今回は震災と読み聞かせに関するHPを紹介します。

- ☑ 東日本大震災と子どもの読書についての情報(国際子ども図書館)  
[http://www.kodomo.go.jp/info/child/news\\_earthquake.html](http://www.kodomo.go.jp/info/child/news_earthquake.html)  
東日本大震災と子どもの読書についての幅広い情報を掲載。
- ☑ JSPP 被災地での絵本の読み聞かせマニュアル(医師向け)(日本小児精神医学研究会)  
[http://homepage2.nifty.com/jspp/jspp\\_website/JSPP\\_hui\\_ben\\_dumi\\_wenkase.html](http://homepage2.nifty.com/jspp/jspp_website/JSPP_hui_ben_dumi_wenkase.html)  
被災した子どもへの読み聞かせをする際の配慮や注意についてまとめられたリーフレット。読み聞かせ活動をする人をサポートする医師を想定して制作されたもの。配布用リーフレットの表題は『子ども達と絵本を読む大人の方へ』。
- ☑ 非常時の子育て情報(ベネッセ)  
<http://care.shimajiro.co.jp>  
「心のケア」(年齢別)の中の「心をケアする読み聞かせ」では本の選び方のアドバイスも。
- ☑ 広報こおりやま 2011年7月号特集 郡山市 震災後子どもの心のケアプロジェクト ～ 子どもたちに笑顔を～  
<http://www.city.koriyama.fukushima.jp/index.html> (郡山市トップページ)  
郡山市の取り組み。「2. 読み聞かせによる心のケア～本を通して抱きしめる～」では、家庭での読み聞かせのアドバイスと効果について掲載。  
大澤(子ども読書支援ボランティア)

